

第11期東京都生涯学習審議会

第9回全体会 審議資料

令和2年12月17日

(オンライン会議)

第9回全体会 次第

1 開会

2 議事

(1) 事例紹介

「NPO等による青少年を対象とした取組に学ぶ②」

一般社団法人ウィルドア 共同代表理事

竹田 和広さん

(2) 審議

3 今後の予定

4 閉会

2 議事

(1) 事例紹介

「NPO等による青少年を対象とした取組に学ぶ②」

一般社団法人ウィルドア 共同代表理事

竹田 和広さん

一人ひとりが
自分と社会と
共に生きられる
未来へ

第11期東京都生涯学習審議会

～第9回全体会資料～

令和2年12月17日

一般社団法人ウィルドア共同代表理事
竹田和広

willdoor



たけだ かずひろ

竹田 和広

東京出身・神奈川育ち
1992年生まれ(27歳)

起業に至る背景

周りとは価値観が合わず生きづらい感覚を強く持った中高生生活を送る。高1で教員の後押しがきっかけで学校外のイベントに参加。様々な同世代の高校生や地域の社会人と出会い、いかに自分が狭い価値観の中で生きていたかを痛感。その中で「起業」「地域活性化」に関心を持つ。

しかしそれを周囲の友人・教員に話しても共感や協力は得られないことも多かった。「なぜ夢を持ってないのか。なぜあってもそれを周りに言えなかったり、否定されたりしてしまうのか」と問題意識を持つ。

その後、東日本大震災をきっかけに地域のつながり・地方創生にも関心を持ち、複数地域で地域活動に従事。その中で共に地域で活動する同世代や後輩が、自分のやりたいことを見つけたり、いきいきと自ら活動をし始める姿を見て、地域の若者を輝かせるポテンシャルに気づく。

2015年、横須賀で行った高校生向けイベント企画をきっかけに創業。

略歴

2015年：慶應義塾大学商学部 卒業

一般社団法人ウィルドア 設立

NPO法人横須賀創造空間 理事就任

2017年：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント 修了

2018年：マイプロジェクト関東事務局 事務局長 就任

Vision

一人ひとりが“自分”と“社会”と共に生きられる未来

社会を生きる一人ひとりが心豊かに生きていける未来をつくっていきます。

自身の強さ・弱さを受け容れ、周りにいる人々＝“社会”のなかで自分の役割をみつけながら生きていける状態を、「個人が豊かに生きられる条件」と定義し、それに向けた活動を行っています。

Mission

そうなれるはずなのになれない一人ひとりが在りたい姿に近づくために、適切なきっかけをデザインする

“自分の夢を叶えたい”という人、“なんでもいいから、今の自分から変わりたい”という人…。

「もっとよく生きたい」という望みは同じでも、一人ひとりが求めているものは多様です。

「“在りたい姿”になるために、何をしたら良いのかわからない」

一人ひとりがこう在りたい自分になるために、それぞれにとって今、必要なきっかけを獲得できる環境をデザインすること。そのきっかけに出会える確度を高める環境をつくっていくことが、ウィルドアのミッションです。

名称：一般社団法人ウィルドア

設立日：2015年5月14日

役員：

共同代表理事	竹田 和広
共同代表理事	武口 翔吾
理事	関口 真司

体制：

正会員 9名
従業員 1名

所在：

〒211-0004
神奈川県川崎市中原区
新丸子東1丁目794 静観ビル 301

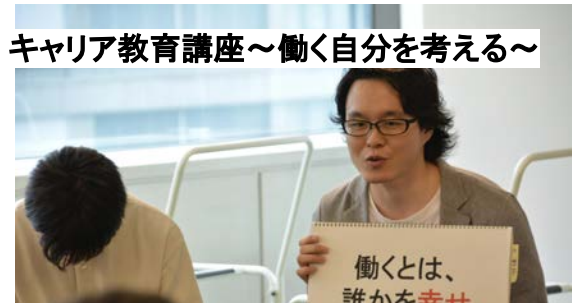
NPOとの協働による新しい枠組みづくり



マイプロジェクト関東事務局



企業への協力によるプログラム構築・コーディネート



キャリア教育講座～働く自分を考える～



～ 正解のない社会で結果を出す ～
チームワークを「学ぶ」講座



横須賀アントレチャレンジ

学校・地域連携でのモデル構築



単発型キャリア教育プログラム提供



定期型探究カリキュラムサポート



学校・地域連携モデルの指向

ウィルドアの理念とアプローチ





学びの主役は高校生。

“与える大人”視点(学校か社会か等)ではなく“主役たる高校生”の視点できっかけをデザインし、「わたしからはじまる学び」を後押しする。

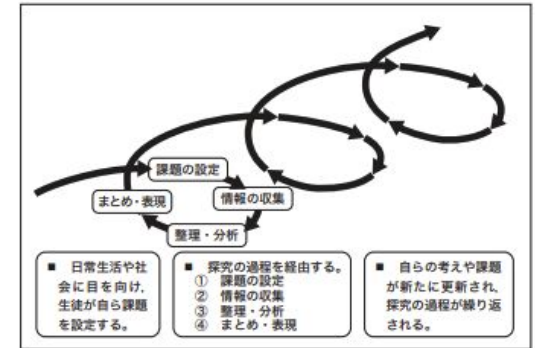


「在りたい姿でいたい／なりたい」という感情は誰もが持つ願望であり、そこに向かえていない感覚も普遍的に共感される課題だが、個々人によって欲しているきっかけは異なる。ウィルドアでは「在りたい姿に向かいたい個人」の視点を重視し、一般的には「支援対象」にはならない普通の人も含め、自らの可能性を切り開いていけるよう、対象を限定しないユニバーサルなアプローチを試みている。

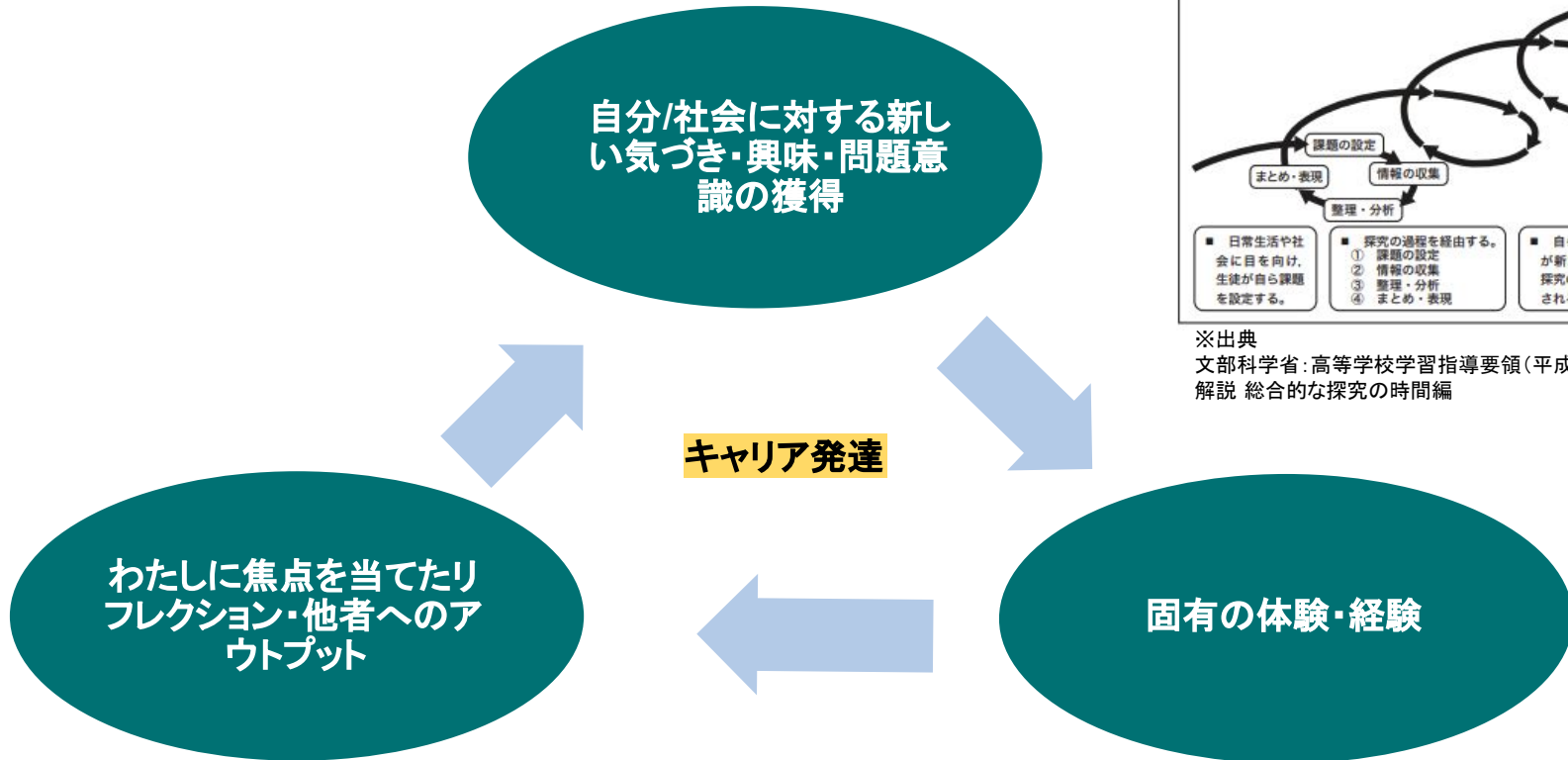


一人ひとりのキャリア発達を促し、
「わたしからはじまる学び」を生み出し続けることができる状態に。

探究的な学習のサイクル※



※出典
文部科学省：高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）
解説 総合的な探究の時間編





自分/社会に対する新
しい気づき・興味・問題
意識の獲得

未知の事実や知識との出会いや、意識下にはない自身の価値観や感情に触れる機会を通して、自身の価値観や問題意識を (再)構築する。

わた
フレ

[実践プログラム例] マンガから始めるキャリア教育

自分の共感する/憧れるキャラクターのなりたいところ・似ているところを語る中で、自らの中にある価値観やこだわり気づく

[実践プログラム例] ロールモデルトーク

社会を生きる大人からの視点共有を受け、自らの人間観・社会観を再構築する



白八(社会)に対する新

既存の知識ではない自身固有(だと感じることができる)体験や経験を経て、「語り得る自己」の素材を蓄積する。

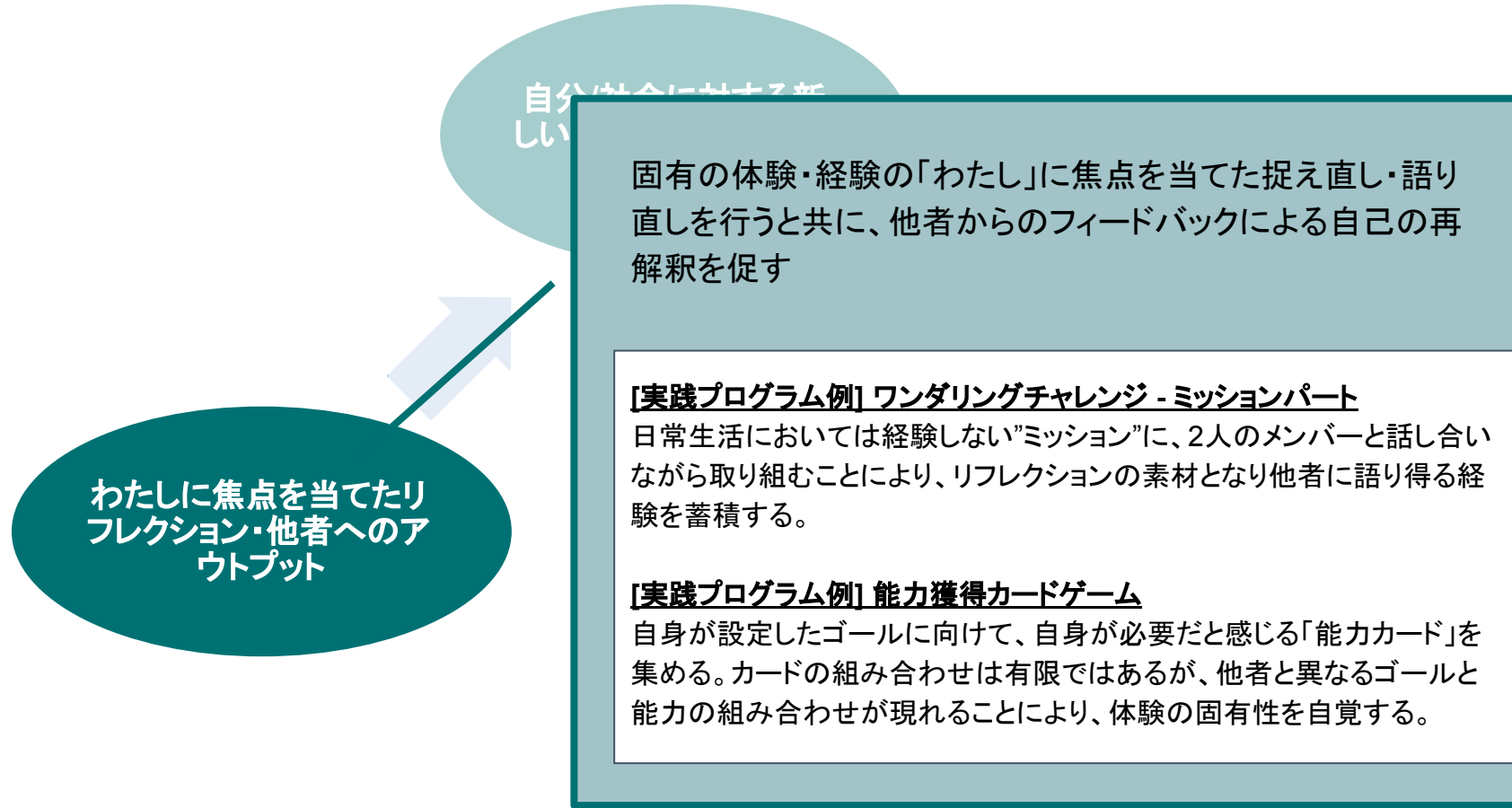
[実践プログラム例] ワンダリングチャレンジ - ミッションパート

日常生活においては経験しない”ミッション”に、2人のメンバーと話し合いながら取り組むことにより、リフレクションの素材となり他者に語り得る経験を蓄積する。

[実践プログラム例] 能力獲得カードゲーム

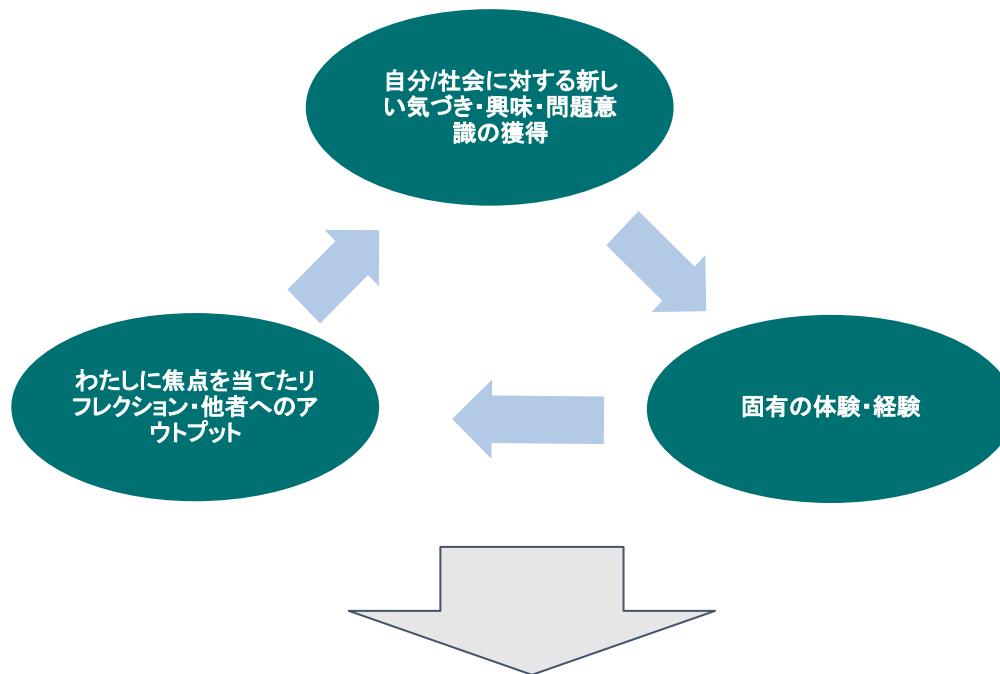
自身が設定したゴールに向けて、自身が必要だと感じる「能力カード」を集める。カードの組み合わせは有限ではあるが、他者と異なるゴールと能力の組み合わせが現れることにより、体験の固有性を自覚する。

固有の体験・経験





一人ひとりの中で「わたしからはじまる学び」のサイクルが回ることで、キャリア発達がより促されていく。



上記を理想とした時、以下の2つの問題に着目しアプローチを開始。

- 自らの在りたい姿について思考したり・気づきを得られる機会が少ない
- 個々の興味・関心や理想に応じて固有の体験・経験を得ることが困難



「学校教育」と「社会教育」には、それぞれ強みと弱みがある。
それぞれの強みで他方の弱みを補い合うように事業を設計。

学校教育



能動的には機会を求めない高校生にも働きかけることができる。

カリキュラムとして 系統だった場や機会 を届けやすい。

人間関係が固定化し、異なる価値観に触れる機会が少ない。そのため、自分自身の 価値観を表現することに二の足を踏んでしまう。

集団全体にとっての価値を優先し、個別期待・ニーズに寄り添いきれない事が多い

強み

弱み

社会教育

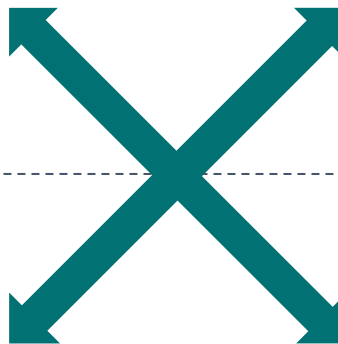


非日常的な関係性により、自分の意志で普段発揮できていない 個性や価値観の表現がしやすい

個に寄り添った機会 を作るすることができる

良いコンテンツがあっても、高校生にリーチできないことがしばしばある。

継続的な場や機会を届けるにはコストが掛かり、単発な場や機会になりやすい。





● 高校への探究・キャリア教育授業サポートプログラム(2015年～)

主に神奈川・東京地域の高校を対象に、年間延べ300名以上の協力者と共に探究学習やキャリア教育をテーマとしたオーダーメイド型のプログラムを実施。

〈2019年度は11回(8校)での実施〉

東京都立高校: 日野台高等学校、足立東高等学校、府中高等学校、浅草高等学校、立川国際中等教育学校、練馬高等学校
その他学校: 三浦学苑高等学校

※都立高校に対しては都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業として実施。

● 企業プログラムの開発・運営(2015年～)

企業と協働し、企業資源を活用した高校生対象のプログラム開発および運用サポートを実施。

例:

- ・株式会社JTBと協働し修学旅行で東京に来た中高生を対象に、首都圏でイキイキと働く社会人との対話プログラムを開発・運営
- ・サイボウズ株式会社と協働し、同社内におけるチームワークメソッドをベースに、中高生のチームワーク向上を目指した授業プログラムの開発・運営。

● 横須賀にて個別の高校生へプロジェクト活動サポート(2015年～)

高校生が地域を使って自身のテーマを深める探究アクションをサポートするために、プログラム後の時間や放課後の時間を活用した有志の高校生を対象とした相談会や地域の人・情報のコーディネートを実施。

● 探究・マイプロジェクトに関する教員研修(2018年～)

認定NPO法人カタリバと協働し、「内発的動機から生まれる問い×実社会での実践を通じた学び」を重視した探究カリキュラムを作ろうとする学校・教員を支援するための研修や勉強会を実施。



●企業・NPOと連携した地域での体験学習プログラムの開発・運営(2015年～)

横須賀を中心に、地域に根ざした企業やNPOと連携した体験型プログラムの開発・運営を実施。

例:地域企業・NPOと連携し、横須賀にある無人島の魅力を新聞形式で表現するワークショップを実施。

●マイプロジェクトスタートアップイベント・中間報告会の企画・運営(2017年～)

認定NPO法人カタリバと協働し、長野県教育委員会や企業等の協力を得ながら、高校生を対象に個々のプロジェクト活動を後押しすることを目指したイベントを企画・運営。

●マイプロジェクトアワードの企画・運営(2017年～)

認定NPO法人カタリバと協働し、これからの時代の学びのロールモデルを教員・NPO等と共有することでそれを応援していく土壌を作ることを目指し、高校生たちがそれぞれのプロジェクトを通して得た学びを発表し学びをふりかえりイベントを企画・運営。(関東甲信越・静岡)

●横須賀起業家育成プログラム:アントレチャレンジ(2017年～)

公益財団法人横須賀市産業振興財団や市内の企業と連携し、中高生のアントレプレナーシップの向上を目指した起業体験プログラムを実施。

●MAKERS UNIVERSITY U18の企画運営(2017年～)

認定NPO法人ETIC.と協働し、全国の高校生を対象に次世代の起業家・イノベーターの育成を目指した5泊6日の合宿型プログラムの実施、及び参加者のプロジェクト・事業を支援する奨学金制度の設計・運用を実施。

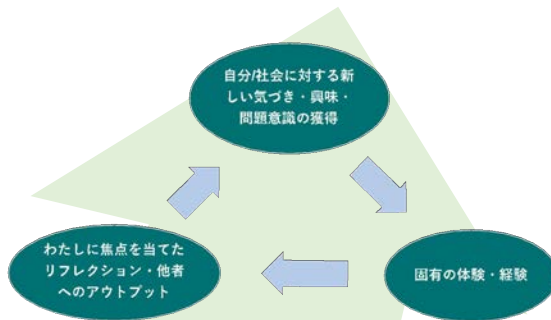
●ワンダリングチャレンジ神奈川大会の企画・運営(2019年～)

台湾のNGO CityWandererが現地にて行っていたプログラムノウハウを提供いただき、認定NPO法人ETIC.や県内企業と連携して、高校生を対象に目的意識を育む経験と学びを届けることを目指した3人1組でミッションに挑むチーム対抗型イベントを企画・運営。



一人ひとりが「わたしからはじまる学び」を学校内/社会を行き来しながら 繰り返し獲得し、「在りたい姿」へ向かっていけるような環境づくり

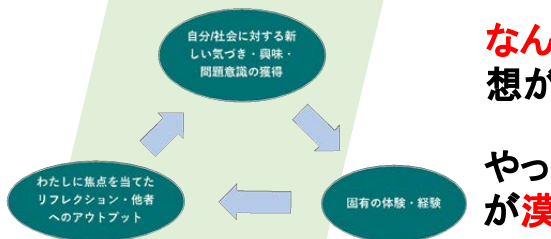
凡例 ● 学校内 ○ 学校外



自分の在りたい姿が**明確**にある。

社会の中で担いたい**役割**を見つけている

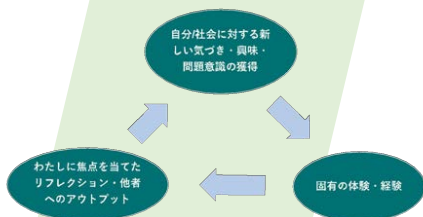
○MAKERS UNIVERSITY U18の企画運営(2017年～)



なんとなく自身の**興味・理想**がある

やってみたいこと、知りたいことが**漠然**とある。

- 横須賀でのアクションの個別サポート(2015年～)
- マイプロジェクトアワードの企画・運営(2017年～)
- マイプロジェクトスタートアップイベント・中間報告会の企画・運営(2017年～)
- アントレチャレンジ(2017年～)



自分の好きなこと、嫌いなことも**わからない**。

何がしたいか**わからない**。

- 高校への探究・キャリア教育授業サポートプログラム(2015年～)
- 探究・マイプロジェクトに関する教員研修(2018年～)
- 企業プログラムの開発・運営(2015年～)
- ワンダリングチャレンジ神奈川大会の企画・運営(2019年～)
- 企業・NPOと連携した地域での体験学習プログラムの開発・運営(2015年～)

事業事例の紹介





学校内での取り組み事例



学校・学年ごとのカリキュラムや生徒状況に応じてオーダーメイド、またはカスタマイズしてコンテンツを構築し、ワークショップを提供する。
 学校外で提供する形ではリーチしない層を含めた多数の高校生に、「わたしからはじまる学び」への最初の一歩を後押しする機会を届ける。

マンガからはじめるキャリア教育 × 能力獲得カードゲーム(足立東高校)

willdoor “共感”“すごい”から考えよう！

1. すごいと思った人、キャラクターをたくさん書いてみよう！

紹介したいキャラクター

①どんな人？ ②好きなところは？ ③名シーンとは？

2. 人・キャラクターを配置してみよう

得意 ← → 不得意

得意 ↓ ↓ ↓ ↓ 不得意

3. 「なりたい」のところにいる人・キャラクターの特徴を書いてみよう

引かれた人は、1枚「場」から選んで、手札に加える。

高校生活オリエンテーション ワーク (日野台高校 等)

willdoor

理想の高校生活をイメージしよう！

willdoor

センパイの話を聞いてみよう

- 対象校の生徒の状況に合わせて設計を行うと共に、一人ひとりが自分にとって価値ある学びを自ら見いだせる知識創造型のプログラムとする
- 外部資源を積極的に活用すると共に、「わたし」や「社会」について考えることが「楽しい」というイメージを届ける。



学校・教員と連携しながら、学校内の授業と学校外のイベント双方を活用して、自在にいたい姿に向かい始める仕掛けを提供する。

学校への授業提供



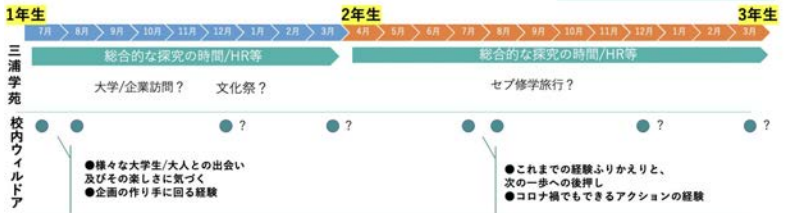
教員の企画への協力



年間計画の調整とコーディネート

● 目指す方向性

<p>自分の興味/関心に出会い、自身でそこの向けて動くことへの前向きな姿勢や動ける環境を獲得する。</p>	<p>一人ひとりが、自らの興味・関心に従い、学校を飛び出して自ら探究のサイクルを一周以上回している。</p>	<p>【大学】より更に先の【自分なりの目標・理想】に向けた進路選択・実現ができるように。</p>
<p>＜このフェーズにて届けたい機会＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆様々な大人/機会との出会い ◆応援し合えるクラスメイト/先輩 ◆外部のイベントや大学生・大人と話すことへの前向きな感情を持つ経験 ◆自分は他者/社会に働きかけられるという実感経験 (大人に自分の意見を伝えられる/課題解決に向けて実行できるという自信の獲得) 	<p>◆自身の経験を振り返り、自己発見を深める学びに変えるリフレクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆様々な探究の手段を知り、後押しされること ◆自身の興味・関心をベースにした様々な人とのディスカッション ◆興味関心をより深化させるメンターとの出会い ◆実際に自らの仮説をもとに社会へアクションをする経験 	<p>◆自分の軸・価値観等、より深い自己理解につながるリフレクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自身の理想を言語化し、進路に結びつけて語る機会 ◆進路のロールモデルとなる人との出会い・意見交換



学校との継続的なコミュニケーションにより、カリキュラムや生徒の現状に適したプログラムを設計。

必要に応じ外部プログラムのカスタマイズやコーディネートにも反映。

教員からの後押しで生徒が地域に出ることができることになり、生徒の活動幅が拡大していく

継続して同一のスタッフが関わることで、生徒の状況把握が進むとともにお互いの信頼関係の中で必要なサポートを提供することが可能に



学校外での取り組み事例



一人ひとり異なる課題/ニーズに合った機会を、様々な主体と連携しながら、個人の意志で参加できる場を学校外に創る。

1団体ですべての課題/ニーズには対応できない。だからこそ、様々な資源・想いを持った団体・個人と協働し、それぞれの強みとそれを求める高校生たちを引き合わせる場や仕掛けづくりに挑戦しています。
なお、ニーズとは顕在化されたものだけではなく、潜在的なものにも着目し、そこに価値を見出す高校生一人ひとりにどう届けるかも大切にしています。

<協働実績のある団体(一部)※順不同>



慶応義塾大学商学部





台湾発祥のチーム対抗でミッションに挑むというゲームを通して目的意識を育むゲーム フィクション型探究学習プログラム



▼2019年度に高校生に提示したミッション例

テーマ	ミッション名	難易度	最少人数
自己発見	1 人生のテーマソング	★☆☆	1人
	2 ウィッシュリスト	★☆☆	1人
冒険と挑戦	3 あなたの応援団をつくろう	★★	1人
	4 バイバイ、スマホ!	★☆☆	1人
	5 May I help you?	★★	1人
	6 見ざる、言わざる、聞かざる	★★★	1人
つながりの再構築	7 家族へのラブレター	★☆☆	1人
	8 人生の先輩に連絡しよう!	★★	1人
	9 あの頃と同じ構図でハイポーズ!	★★	1人
	10 お弁当を贈ろう	★★	1人
社会参加	11 ビーチクリーン	★☆☆	1人
	12 Timetravel In My Town	★★	1人
	13 世界見聞録	★★★	1人
	14 季節の“旬”を発見せよ	★★★	1人
オリジナル	15 自分でミッションクリエイト	★★★	1人

事前
・
流入

楽しそう・賞品が欲しいからの流入

「楽しそうだから」「友だちに誘われたから」「賞品がほしい」という表面的な動機から参加できる設計

ミ
ッ
シ
ヨ
ン
挑
戦
期
間

チームでミッションに挑戦

3人1組で、日常の中では挑戦しない・できないアクションを「ミッション」として提示。

リフレクションを提出

ミッションとセットで設定されているリフレクションクエストに回答し、提出。

表彰

期間中の成長を表彰

ミッションの取り組み成果ではなく、リフレクションから見られる期間中の挑戦・成長を表彰

めざせ、3大陸!
外国人観光客や日本に住んでいる外国人に話しかけてみよう。
あなたは日本で問題になっていることや社会課題を伝え、相手からはその人の出身国の社会課題を聞いてみて、お互いの国についての意見交換をしてみよう!
3つの異なる大陸から、3人を見つけよう。国が違えば、問題になっていることも違う。きっと日本についても客観的に考える機会になるはず。
※3大陸はアジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、北米、中米、その他から3つを選択しよう。

リフレクション・クエスチョン

- どんな日本の社会課題を選んだ? それはなぜ?
- 相手が話してくれた社会課題の中で、印象的だったことは? 日本と比較してどう?
- 会話を通して、気づいたことは?

アウトプット

- 📷 協力してくれた相手との写真
- 📝 500文字程度の振り返り





関東甲信越・静岡地域をカバー範囲として、学校・地域で取り組まれる探究学習を、“わたしを軸にした学び”にしていくための支援を行う。



- 1 オーナーシップ (主体性)**
誰かにやらされるのではなく、自ら意志を持って挑戦してきたか
考えたり調べたりするだけにとどまらず、粘り強く行動してきたか
- 2 コ・クリエーション (協働性)**
多様な人たちと対話し、協力しながら取り組んできたか
独りよがりではなく周囲に好影響を与え、価値を創りだしてきたか
- 3 ラーニング (探究性)**
実現したい未来に向け、問いや仮説を深め続けてきたか
プロジェクトを通じて成長し、学びを次へ活かそうとしているか



AWARDの企画・運営

学校や地域で行ってきた探究学習で培った経験を「わたしの学び」に転換すると共に、学びのロールモデルを発信する機会を構築。



中間施策の設計

学校での探究を前提としつつ、高校生の学びが“わたし”を軸にしたものに変容していくためのサポートを実施。



知見・情報の共有/拡散

全国事務局が提供するマイプロジェクトのカリキュラムに接続できる学校を増やすための周知活動や、教員を対象とした研究会実施を支援。



オンライン化への対応

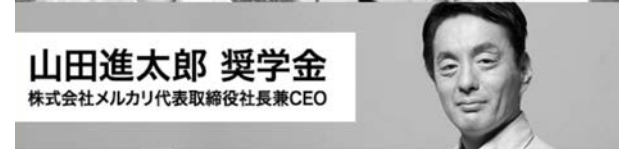
2020年度は、上記全ての施策をオンライン化する形で対応を実施。



周囲からは「変わっている」と言われ理解・応援をされにくい、飛び抜けて強い思い・問題意識を持った高校生が、その理想を肯定し自分の進みたい道を進んでいけるサポートをできるコミュニティおよびメンターとの出会いを届ける。



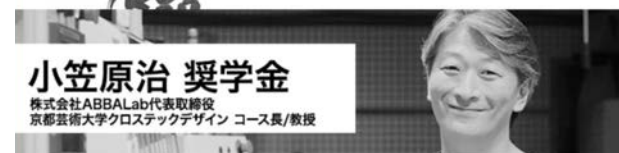
佐俣アンリ 奨学金
ANRI General Partner



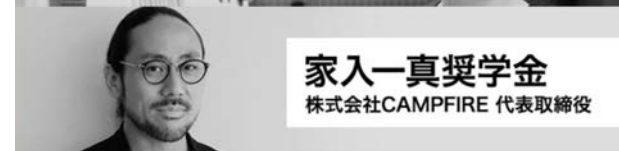
山田進太郎 奨学金
株式会社メルカリ代表取締役社長兼CEO



黒越誠治 奨学金
適格機関投資家(個人)



小笠原治 奨学金
株式会社ABBALab代表取締役
京都芸術大学クロステックデザイン コース長/教授



家入一真奨学金
株式会社CAMPFIRE 代表取締役

企業特別サポート
WeWork Japan

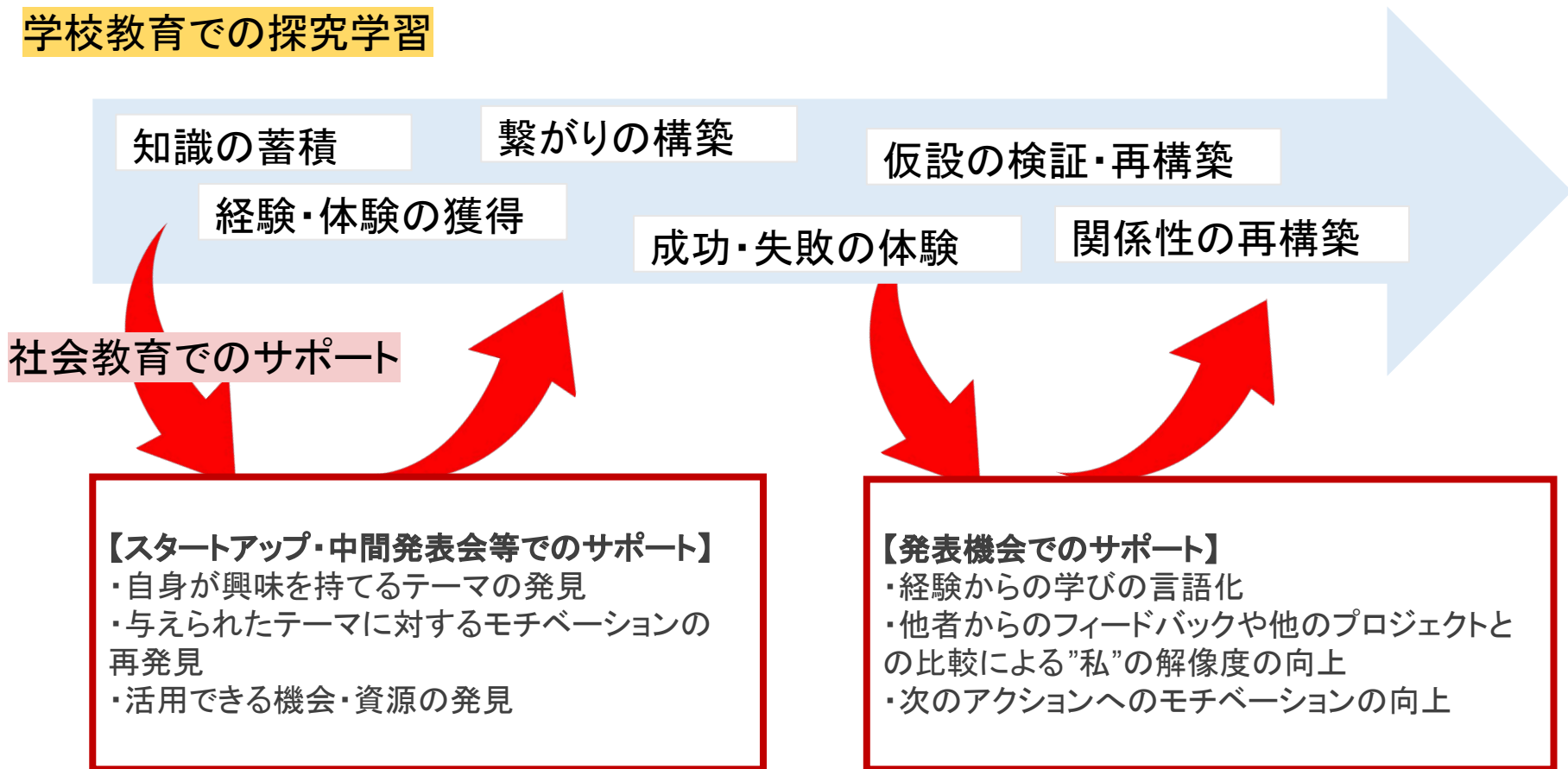




マイプロジェクト関東事務局として長野県教育委員会「学びの改革支援課」と共催で、県内の高校生を対象に、学校外にて「スタートアップイベント」「中間発表」「アワード(発表・表彰)」の機会をつくっています。

このマイプロジェクトの取り組みは、学校やそれに準じる日常における探究学習で培われる経験・体験を、定期的・非日常的であるマイプロジェクトの外部イベントを活用して「わたし」にとっての価値」を再認識・理解したり、学校という制約を超えた自身の学びを深めるアクションへの後押しを意図して取り組んできました。

学校教育での探究学習





私はウィルドアに出会う前は、あまり目立つタイプの学生でも、自分からどんどん外に出ていくタイプの学生ではありませんでした。中学生の頃にあまり良くない体験をしたことから自信をなくして人見知りになり、人間不信にも陥って自分も人も信じられない時期もあったくらいの人間でした。

特別、勉強が、運動が、楽器が、できるわけではありませんでした。何をするにも常に自信のなさと一緒にでした。

そんな私がウィルドアに出会って、色々な人に出会って、変わりました。

人も話すことにワクワクしたり、何か想いを実現するために動いてみたり。自分が暴走系アイデアマンだと気づけたのも、ウィルドアに出会えたからです。正直、自分に発想力があるとは思っていませんでした。そしてその発想を「それいいね！」と笑顔で受け止めてくれる方がウィルドアにも、その周りにも、沢山いました。

その方々のおかげで、中学生の頃全く価値がないと思っていた自分を少し好きになれました。ここなら受け止めてくれる人がいる、私でも何か役に立てることがあるかもしれない、と。

気づけば就職活動も

『人の想いを実現するサポートができること』

『人の幸せに長く携われること』

この2つを軸にしていました。

ウィルドアに出会わなければ、私はきっとあの頃のままカウンセラーという道を見続け、大学選択も心理学部しか見ないで、心理学部を真っ直ぐに目指し続けてたと思います。もちろんそれもいい選択だと思うけど、私は今の選択に後悔してないしこれで良かったと心底思っています。

※AさんのSNSでの投稿より抜粋して掲載



①高校内でのキャリア教育プログラム



②地域での体験学習プログラム(猿島新聞作成ワークショップ)



③高校内での探究活動サポートプログラム

④マイプロジェクトのスタートアッププログラム及び個別サポート



①いつもの土曜日の授業。でも、その日は違った。どうやら学校外から大学生や大人たちが、ワークショップを開いてくれるとか

以前から学外でのイベントのチラシは貰ってはいたけど、一切行ったことはなく。教員は推してたけど、人見知りな私はなかなか外に出向く気持ちにはなれなかった。

『なんだ、ワークショップって楽しいじゃん。』
この気持ちが私を外に出す手助けになった。

②初回のワークショップに参加をした後、話をしてくれた大学生から貰ったチラシのイベントに参加した。
そして、終了後の何気ない雑談から生まれた1つのプログラムがまた私の転機になった。

③そのプログラムを「もし実際に出来たらいいな～そうになったら凄いな～」くらいの気持ちで学校に提案したところ、なんと生徒が今度は企画に回ることに。

④そこから更に今度は学校を飛び出して、校内の異なるコースに所属する4人のチームでプロジェクトチームが立ち上がった
学校という枠を飛び出して、特進という肩書きを外して活動できたことが嬉しかった。そしてそれを受け入れて、場に参加してくれる人がいてくれたこともとっても嬉しかった。

※AさんのSNSでの投稿より抜粋・一部編集して掲載



学校と地域資源の接続する仕掛けが不十分であり、一人ひとりの高校生が社会教育資源を生かして学びを続ける支援まで出来ていない。

＜課題を感じる瞬間＞

教員の方針・社会資源との繋がりや理解によって、生徒の可能性に大きな差が生まれている

- 探究の時間が、他の進路行事等の兼ね合いで削られていくことが多い。
- 教員から提示される情報や姿勢により、生徒の探究学習に大きな差を生んでいる。
- 外部の機会や資源に関する情報も、教員の判断により届けられないこともある。

学校に対して外部団体として単発で関わるだけでは、一人ひとりの興味関心や理想に関わる次の一歩への後押しがしきれない

- どの学校を訪問しても、2割程度は少なくとも探究や自身の生き方・在り方を考えることに意欲がある生徒がいる。
しかし生徒の自主性に任せるだけでは、自ら次の一歩を踏み出すことは難しい。
- 限られた時間かつ一斉授業の形だけでは、異なる興味・関心を持った生徒一人ひとりに合った形で次の一歩を後押しする機会
はつくりにくい。

高校生の探究心へ火がついても、興味・関心に合った社会教育の機会がないことが多い

- 高校生から多様な問題意識や興味・関心が現れる中で、それを接続できる学校外機会が十分ではない。
- 社会教育側での取り組みも単発な場合が多く、個々に合ったタイミングに対応しきれない。



原因①: 学校側から見た際に「信頼に足る場や機会」の欠如

- ↳ 地域のイベント等、活用できる社会教育資源は多数存在しているものの情報が散在しており、教員から見た際に安全性が高く価値が高い資源を把握して、高校生に提示することは難しい。
- ↳ 高校生を社会教育に接続していく上では、教員側に情報やつながりの獲得が委ねられているが、自らそれらを獲得することは教員の専門性と異なると共に、時間的・労力的なコストも高い。

原因②: 外部から高校生に機会提供・サポートを行うことへのハードルの高さ

- ↳ 様々な専門性・問題意識から高校生世代をサポートする意志のある人や団体は多数存在する。しかし「高校生集客（情報を届ける術に欠く）」や「会場確保（適切な場所がない・お金がかかる）」が難しいことにより、機会損失が多数発生している。
- ↳ 経験値を積みづらいことにより、意思ある個人・団体の業界離脱も多い。

原因③: 対象層/ターゲットによる団体間の繋がり・相互理解の弱さ

- ↳ 東京都内には既に様々なプレイヤーがいる一方で、お互いの活動・存在を認識していないケースも多い。
- ↳ 一つの活動に参加しても、そこでの学びを踏まえ次の場や機会に高校生をつなぐことが出来ず、その場で学びが止まってしまっている。

学校教育と社会教育の間にある壁を少しずつ取り除くとともに、高校生一人ひとりの意志で学びを獲得できるようサポート環境を充実させる必要がある。



学校教育と社会教育をシームレスに。そして自ら踏み出した高校生たちを受け止められる地域環境づくりに注力。

① 個人の意志で、より広い社会資源と繋がることのできるプラットフォームづくり

学校側の変革を求めることは時間がかかる一方で、今まさに自らの興味・関心から新たな経験・出会いを求める高校生は日本中にいる。

まずは都立高校の自立支援プログラム等で直接関わった生徒を対象に、個人に意志があれば参加する事ができるオンラインでのサービスを小規模プロトタイプとして開発中。このサービスでは①一人ひとりの想いや在りたい姿を引き出すとともに、②その在りたい姿に向かうための固有の出会い(人/機会)を結び合わせることを目指す。

② ユニバーサルアプローチで、様々な資源を持った主体が高校生を対象とした機会・場の創り手になる支援の実施

何か次世代の成長に役に立ちたい。サポートしたいという人は多数存在している。そしてユニバーサルアプローチだからこそ、既に社会課題化された対象層だけでなく、すべての人が当事者意識を感じる場や機会を見つけることができる。

次世代をサポートする事への想いを持った個人・団体が、それぞれの強みをいかした形で高校生に向けた機会・サポートをできるサポートを検討している。

〈これまでの取り組み〉

- ・学生・社会人マッチングイベント(2015年～2017年)
- ・社会人に向けたキャリア教育・学校講座(2019年)



教員・学校が安心して社会教育の機会・場を紹介しやすくするための、外部資源の集約化・可視化とそこへの接続しやすくする仕組みづくり

- 都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラムにおける「教育支援プログラムの紹介」リストのように、学校に紹介できる学校外プログラム・パートナーリスト。
- 都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラムと、社会教育プログラムの接続の仕組み化。

定常的に存在する高校生一人ひとりが一歩踏み出せる「場」の設置

以下のような機能を持つ施設・場が、より多く持たれることを期待する。

- ターゲットアプローチではなく、意志ある高校生であれば誰でも活用できる「そこに行けば自身にとっての学びの機会が得られる」期待を得られる。
 - 様々な団体や機会とのネットワーク・ハブとなれる団体が常駐しており、定常的に機会や情報を渡すことができる。
 - 教員としても、生徒としても安心して最初の一歩を踏み出せる／紹介できる。
 - 様々な専門性を持った団体が、ハードル低く高校生を対象とした機会・サポートをつくることができる。
- ※このような場の設置は、次世代のサポートを希望する団体やスタッフの育成にもつながる。

「学びの受け手」だけではなく「創り手」を応援できる支援制度の拡充

ユニバーサルアプローチで一人ひとりの学びを後押ししてゆくためには、それぞれの希望・興味に合った資源・情報を得られるだけの多くの機会が必要となる。そのためには、これまで行動できていなかったが想いのある人達がそうした機会の創り手となっていけるための支援する必要がある。

- 高校生自身も創り手の一人になり得る。一人ひとりが仮説を持ち社会へと働きかける中で新たな知を創り出していく学びもある。そのためには、資金的なサポートや挑戦できる環境が必要となる。

2 議事

(2) 審議

2つの観点を中心に御意見をお願いします。

- ・中高生を対象としたキャリア教育支援の重要性と課題
- ・中高生のキャリア形成における東京都に期待される役割

3 今後の予定

第10回 令和3年2月12日〔金曜日〕
18時から20時

事例紹介

NPO等による青少年を対象とした取組に学ぶ③
認定NPO法人育て上げネット

4 閉会

ありがとうございました。